

白髪一雄の世界

初期水彩画からアクション・ペインティングまで



尼崎市コレクションによる



9月13日(金)～12月15日(日)

青森県立美術館 
AOMORI MUSEUM OF ART

尼崎市コレクションによる

白髮一雄の世界

初期水彩画からアクション・ペインティングまで

9月13日(金)～12月15日(日)

9月30日まで 9:00 - 18:00 (入館は17:30まで)

10月1日から 9:30 - 17:00 (入館は16:30まで)

休館日 第2、第4月曜日 (この日が祝日の場合は、その翌日)

観覧料 一般 510円、大学・高校生 300円、中・小学生 100円

主催 青森県立美術館、尼崎市

協力 アートトランジット株式会社、(公財)尼崎市文化振興財団

助成 令和元年度文化芸術創造拠点形成事業 文化庁

青森県立美術館の令和元年度第3期コレクション展の特集展示として「白髮一雄の世界」を開催いたします。本展は、今年度から兵庫県尼崎市が始めた、同市が所蔵する白髮一雄コレクションを全国の美術館で紹介していく「白髮一雄発信プロジェクト」として展開するものです。

白髮は、戦後関西の前衛美術グループ「具体美術協会」の中心的メンバーとして活躍しました。足で描くアクション・ペインティングという独創的な制作スタイルで描いた抽象画が、現在、世界的に高い評価を受けています。本展では、風景を描いた初期水彩画から、抽象画を描き始めたころの油彩、白髮の代名詞ともいえるフト・ペインティングまで、生涯を通じて制作してきた作品の流れを感じていただける展示になっています。同時期に開催するコレクション展「土着と前衛～戦後日本美術の歩み」での青森ゆかりの画家たちと併せてご覧いただくことで、それぞれの魅力をより感じただけることでしょう。



【初期風景画】白髮一雄は祖父が明治に創業した老舗呉服店の長男として尼崎に生まれました。中世から海運の交易地として賑わい、江戸時代には城下町として繁栄した尼崎は、幼少期の白髮にとって、「何か優雅なものが漂っている町」でした。白髮は江戸期の葛飾北斎やその弟子の昇亭北寿、明治期の小林清親などの浮世絵版画にも関心があり、これらに影響を受けて若い頃に描いた水彩画に、尼崎をはじめとし、京都や神戸を描いた風景画のシリーズ（1947～48年作）があります。

【初期油彩画】京都市立美術専門学校（現：京都市立芸術大学）で日本画を学んだ後、もともと洋画家を志望していたため、大阪市立美術館の美術研究所や新制作派協会（現：新制作協会）の会員で芦屋在住の洋画家、伊藤繼郎のアトリエに通い洋画を描き始めました。当時の白髮は《甲冑部屋》や《妖家具》など、「部屋シリーズ」と題した暗い色調の作品を描いていました。その後数年間に、《本能の結集》など絵筆で描く抽象画から、《流脈I》などペインティング・ナイフを用いたものになり、さらに爪や指、足を使ったアクション・ペインティングへと変化を遂げます。

【アクション・ペインティング】20代の後半に、仲間とともに「0(ゼロ)会」という小さなグループを作り制作発表を始め、1954年に初めて素足で描く絵画を試みました。翌1955年に芦屋在住の洋画家・吉原治良をリーダーとして若い美術家たちが集まり結成された前衛美術グループ「具体美術協会」に入会しました。「人のまねをするな」「これまでになかったものを創れ」という吉原の厳しい教えのもと、白髮は床に広げたキャンバスの上に絵具をぶちまけ、その上をロープにつかまって素足で滑走するという独創的なアクション・ペインティングを確立しました。

代表作「水滸伝豪傑シリーズ」の《天傷星行者》にみられるような、激しいアクション・ペインティングの源は、生涯を過ごした尼崎の貴布禰神社に伝わる夏祭りの記憶など、地域の文化とも深い関わりをもっています。また仏教に関心を抱き、比叡山延暦寺で得度し、修行を行った後の作品には、《大威德尊》のように身体的なダイナミックさだけでなく精神的な深みが加わりました。晩年の作品には、パワー溢れる女性をイメージして描かれた《天女の舞》など、男性的な力強さが特徴であった白髮の表現に、色鮮やかでおおらかさをもった作品が加わり、アクション・ペインティングの豊かな世界が展開されました。



- ①《尼崎与茂川づつみ》1947年 ②《尼崎小工場》1948年
 ③《鳥檻》1949年 ④《本能の結集》1952年 ⑤《天傷星行者》1963年 ⑥《大威德尊》1973年 ⑦《天女の舞》2000年

【関連トーク・イベント】

11月9日(土)午後2時～3時30分、ワークショップAで、白髮一雄研究の第一人者で関西大学教授の平井章一さんによるトーク「アクション・ペインター白髮一雄の世界」を開催します。申込不要。参加無料（ただしコレクション展の観覧チケットが必要です）。

青森県立美術館 AOMORI MUSEUM OF ART



お問い合わせ

青森県立美術館 Tel: 017-783-3000

尼崎市文化振興担当 Tel: 06-6489-6385